医学科教育学修プログラム

令和5年度

5年次

【米子地区授業時間】

1時限	： 8:40 ～ 10:10
2時限	:10:30 ～ 12:00
3時限	:13:00 ～ 14:30
4時限	:14:50 ～ 16:20
5時限	:16:40 ～ 18:10

【鳥取地区授業時間】

1時限	： 8:45 ～ 10:15
2時限	:10:30 ～ 12:00
3時限	:13:00 ～ 14:30
4時限	:14:45 ～ 16:15
5時限	:16:30 ～ 18:00

令和5年度　授業時間配当表（医学科5年次）

※（　）内の数字は週数を表す。

	5年前期				5年後期			
	1週　1限　22週	1週　2限　22週	1週　3限　22週	1週　4限　22週	1週　1限　14週	1週　2限　14週	1週　3限　14週	1週　4限　14週
月	臨床実習Ⅰ(22)	臨床実習Ⅰ(22)	臨床実習Ⅰ(22)	臨床実習Ⅰ(22)	臨床実習Ⅰ(14)	臨床実習Ⅰ(14)	臨床実習Ⅰ(14)	臨床実習Ⅰ(14)
火	臨床実習Ⅰ(22)	臨床実習Ⅰ(22)	臨床実習Ⅰ(22)	臨床実習Ⅰ(22)	臨床実習Ⅰ(14)	臨床実習Ⅰ(14)	臨床実習Ⅰ(14)	臨床実習Ⅰ(14)
水	臨床実習Ⅰ(22)	臨床実習Ⅰ(22)	臨床実習Ⅰ(22)	臨床実習Ⅰ(22)	臨床実習Ⅰ(14)	臨床実習Ⅰ(14)	臨床実習Ⅰ(14)	臨床実習Ⅰ(14)
木	臨床実習Ⅰ(22)	臨床実習Ⅰ(22)	臨床実習Ⅰ(22)	臨床実習Ⅰ(22)	臨床実習Ⅰ(14)	臨床実習Ⅰ(14)	臨床実習Ⅰ(14)	臨床実習Ⅰ(14)
金	臨床実習Ⅰ(22)	臨床実習Ⅰ(22)	臨床実習Ⅰ(22)	臨床実習Ⅰ(22)	臨床実習Ⅰ(14)	臨床実習Ⅰ(14)	臨床実習Ⅰ(14)	臨床実習Ⅰ(14)

令和5年度・七曜表

（医学科5年次）

	前期							週数
	日	月	火	水	木	金	土	
4							1	
	2	3	4	5	6	7	8	1
	9	10	11	12	13	14	15	2
	16	17	18	19	20	21	22	3
	23	24	25	26	27	28	29	4
	30	1	2	3	4	5	6	
5	7	8	9	10	11	12	13	5
	14	15	16	17	18	19	20	6
	21	22	23	24	25	26	27	7
	28	29	30	31	1	2	3	8
6	4	5	6	7	8	9	10	9
	11	12	13	14	15	16	17	10
	18	19	20	21	22	23	24	11
	25	26	27	28	29	30	1	12
7	2	3	4	5	6	7	8	13
	9	10	11	12	13	14	15	14
	16	17	18	19	20	21	22	15
	23	24	25	26	27	28	29	16
	30	31	1	2	3	4	5	
8	6	7	8	9	10	11	12	
	13	14	15	16	17	18	19	
	20	21	22	23	24	25	26	17
	27	28	29	30	31	1	2	18
9	3	4	5	6	7	8	9	19
	10	11	12	13	14	15	16	20
	17	18	19	20	21	22	23	21
	24	25	26	27	28	29	30	22

	後期							週数
	日	月	火	水	木	金	土	
10	1	2	3	4	5	6	7	23
	8	9	10	11	12	13	14	24
	15	16	17	18	19	20	21	25
	22	23	24	25	26	27	28	26
	29	30	31	1	2	3	4	27
11	5	6	7	8	9	10	11	28
	12	13	14	15	16	17	18	29
	19	20	21	22	23	24	25	30
	26	27	28	29	30	1	2	31
12	3	4	5	6	7	8	9	32
	10	11	12	13	14	15	16	33
	17	18	19	20	21	22	23	34
	24	25	26	27	28	29	30	
	31	1	2	3	4	5	6	
1	7	8	9	10	11	12	13	35
	14	15	16	17	18	19	20	36
	21	22	23	24	25	26	27	試験期間
	28	29	30	31	1	2	3	
2	4	5	6	7	8	9	10	
	11	12	13	14	15	16	17	
	18	19	20	21	22	23	24	
	25	26	27	28	29	1	2	
3	3	4	5	6	7	8	9	
	10	11	12	13	14	15	16	
	17	18	19	20	21	22	23	
	24	25	26	27	28	29	30	
	31							

備考

臨床実習Ⅰの期間

◇ 未定 臨床統合試験（進級試験）
◇ 未定 臨床統合試験（進級試験）（再試験）
◇ 未定 臨床実習Ⅱ希望調査説明会

鳥取大学医学部医学科コンピテンス・コンピテンシーとの関連表【4～6年次】

凡例		
高度 Advanced	A	医師と同等のレベルであること
応用 Applied	B	スチューデントドクター相当の医学生として模擬的に関与、行動できる
基盤 Basic	C	基盤となる能力を習得していること
	D	基盤となる知識を習得していること
	E	経験・習得する機会はあるが、単位認定に関係ない
	F	経験・習得する機会がない

学年	4年																			臨床実習前の到達度	4年	5年	6年	卒業時の到達度
科目名	法医学	社会医学チュートリアル・実習	皮膚科学	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	産科学	臨床成長・発達学	臨床感染症学	臨床腫瘍学	免疫・アレルギー	老年医学	麻酔科学	救急医学	医療情報学	PBLチュートリアル	臨床実習入門	地域医療体験	臨床地域医療学	臨床医学特論			臨床実習Ⅰ（4年）	臨床実習Ⅰ（5.年）	臨床実習Ⅱ	
単位	1	2.5	1	1	1.5	3	1.5	0.5	1	0.5	1	1	1	3	4	1	0.5	1.5			5	30	18	
Ⅰ 倫理・プロフェッショナリズム																								
・責任ある医療を実践するための倫理観を持ち、それに基づいて行動できる。 ・患者の利益を重視する患者中心の医療を習得し、実践できる。 ・生涯にわたり自己研鑽して高い医療水準と誠実さを持ち続けるために、内発的動機による自己学習能力を持ち、応用できる。																								
1 医の倫理および生命倫理を理解して、適切に行動または判断できる。	D	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	E	B	C	C	C	B	B	B	B	B	
2 利益相反等、研究倫理に関わる問題を理解して、適切に行動または判断できる。	E	E	E	E	E	E	E	E	E	E	E	E	C	E	B	E	E	C	B	B	B	B	B	
3 患者や家族のプライバシーに配慮し、守秘義務を厳守することができる。	C	B	F	F	F	F	F	C	F	F	F	C	C	F	B	C	C	C	B	A	A	A	A	
4 患者中心の医療について理解し、実践できる。	E	C	F	F	F	F	F	E	F	E	F	E	C	F	B	C	C	C	B	B	B	B	B	
5 内発的動機の重要性を理解して自己学習し、医療の知識、技能、態度を維持向上することができる。	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	C	F	B	F	C	C	B	B	B	B	B	
6 社会的に求められる医師像について討論し、目指す医師像を明確にすることができる。	F	C	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	C	F	B	C	C	C	B	B	B	B	B	
7 社会的使命を果たすため、信頼できる行動をとることができる。	F	C	F	F	F	F	F	E	F	E	F	E	C	F	B	C	C	C	B	B	B	B	B	
8 患者や家族にはさまざまな価値観があることを認識し、受け容れることができる。	E	C	F	F	F	F	F	C	F	C	F	C	C	F	B	C	C	C	B	B	B	A	A	
9 同僚や後輩との間で、診療に関する知識や技能を教えあって共有できる。	E	C	E	E	E	E	E	E	E	E	E	E	C	E	B	C	E	E	B	B	B	B	B	
10 様々なキャリアの医師と交流して、主体的に自らのキャリアについて考えることができる。	E	E	E	E	E	E	E	E	E	E	E	E	C	E	B	E	E	E	B	B	B	B	B	
Ⅱ コミュニケーション																								
・思いやりの心や共感的理解力といったヒューマンコミュニケーション能力を実践的に習得して、医療現場等で応用できる。 ・障害者とコミュニケーションしたり、地域フィールドの中でコミュニケーションしたりする能力を実践的に習得して、医療現場等で応用できる。 ・情報社会を理解して、安全かつ有効に情報ネットワークを活用できる。																								
1 患者や患者家族とコミュニケーションを通じて、良好な関係を築くことができる。	F	B	F	F	F	F	F	E	F	F	F	D	C	F	B	B	C	C	B	A	A	A	A	
2 医療チームのメンバーとコミュニケーション通じて、連携を図ることができる。	F	C	F	F	F	F	F	F	F	F	F	D	C	E	B	C	F	D	B	B	B	B	B	
3 聴覚障害者などの障害者と手話等でコミュニケーションをとって、円滑な診療をサポートすることができる。	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	C	F	B	F	F	F	B	B	B	A	A	
4 地域フィールドの中で、地域住民、行政関係者、医療関係者らとコミュニケーションをとり、社会性を身につけ良好な関係を築くことができる。	F	B	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	C	F	B	B	C	C	B	B	B	B	B	
5 安全かつ有効に情報ネットワークを活用してコミュニケーションを取ったり、情報を収集したりできる。	F	C	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	C	E	C	C	C	D	C	B	B	B	B	
Ⅲ チーム医療																								
・他の医療従事者の役割を理解し、連携してチーム医療を行う能力とともに、医師としてリーダーシップを発揮してチームビルディングする能力を習得する。																								
1 医療チームの中で役割を持ち、適切に相談・報告・連絡を行うことができる。	F	B	F	F	F	F	F	F	F	F	F	D	C	F	C	F	F	F	B	B	B	B	B	
2 他の医療専門職を目指す学生と交流し、それぞれに異なる価値観があることを認識し、受け容れることができる。	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	C	F	C	F	F	F	C	A	A	A	A	
3 他の医療専門職との連携を実践できる。	F	C	F	F	F	F	F	F	F	F	F	D	C	F	C	C	F	D	C	B	B	B	B	
Ⅳ 医学の知識																								
・最新の基礎科学、基礎医学、臨床医学、社会医学の知識を習得して、応用できる。 ・医療安全の基礎を学び、予防と対策を講じることができる。																								
1 物理学・化学・生物学の知識を人体の構造や機能の理解に応用できる。	D	F	D	D	D	D	D	D	D	D	D	C	C	E	B	D	D	D	B	B	B	B	B	
2 人体の正常構造と機能や生命現象に関する知識を習得して、病態の理解に応用できる。	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	C	C	B	B	D	D	B	B	B	B	B	
3 人体に関する正常および病態の知識を診断・治療に応用できる。	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	C	C	B	B	D	D	B	B	B	B	B	
4 診療に関わる基本的知識と技能を習得して、臨床実習に実践・応用できる。	F	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	C	D	B	B	D	D	B	B	B	B	B	
5 ガイドラインや論文の情報を活用して、科学的根拠に基づく医療（EBM）を実践できる。	E	D	E	E	E	E	E	E	E	E	E	E	C	C	B	B	E	D	B	B	B	B	B	
6 疫学、予防、保健、福祉、医療経済といった医療の社会性に関する知識を習得して、地域で応用できる。	D	B	F	F	F	F	E	E	E	D	E	D	C	F	B	B	D	D	B	B	B	B	B	
7 医療安全の知識を習得して、患者や医療従事者に起こる医療上の事故及び医療関連感染症を防ぐことができる。	D	C	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	C	F	B	E	D	D	B	B	B	A	A	
Ⅴ 診療の実践																								
・診療に必要な症候・病態について理解するとともに、基本的な診療知識と診療技能を用いて医療面接および身体診察を行い、得られた情報をもとに臨床診断を行い、治療計画を立案することができる。 ・総合的診療および全人的医療の能力を習得し、実践できる。																								
1 早期から医療従事者としてのモチベーションを高めて実践的に示すことができる。	F	E	E	E	E	E	E	E	E	E	E	E	D	E	B	E	E	E	C	B	B	B	B	
2 適切な医療面接で患者の病歴を正しく聴取して整理できる。	F	C	F	F	F	F	F	F	F	F	F	D	D	F	B	B	C	C	B	B	B	B	B	
3 身体診察を適切に行って全身状態や身体各部の所見をとり、病状を判断できる。	F	C	F	F	F	F	F	F	F	F	F	D	D	E	B	B	C	C	B	B	B	B	B	
4 病歴や身体診察の結果から必要な検査を選択し、検査結果を解釈できる。	F	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	D	D	C	B	B	C	C	B	B	B	B	B	
5 病歴、診察所見、検査結果等の情報を整理して臨床推論を行い、疾患を診断することができる。	F	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	D	D	C	B	B	C	C	B	B	B	B	B	
6 適切な治療計画を立案することができる。	F	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	D	D	C	B	B	C	C	B	B	B	B	B	
7 診療録や医療文書を適切に作成できる。	C	E	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	D	F	B	E	F	F	B	B	B	B	B	
8 病状説明や患者教育に参加できる。	E	C	F	F	F	F	F	C	F	F	F	D	D	F	B	B	C	C	B	B	B	B	B	
9 カンファレンスなどで臨床実習の成果を発表、討議できる。	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	D	C	B	F	F	F	B	B	B	B	B	
Ⅵ 知的探究と創造性																								
・常に知的探究心を持ち、基礎と臨床の連携で涵養されるリサーチマインドを身につけるとともに、実践的に医学研究に応用できる。 ・イノベーションの重要性を理解して、実践できる。																								
1 医学・科学研究の成果が社会に貢献している実情を知り、重要性を理解できる。	E	C	E	E	E	E	E	E	E	E	E	E	D	E	B	C	E	C	B	B	B	B	B	
2 医学的・科学的に意義のある研究課題を見出し、研究に取り組むことができる。	F	C	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	D	E	B	F	F	F	B	B	B	B	B	
3 データを解析し、論理的に発表・討論してプレゼンテーションできる。	F	B	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	D	C	F	F	F	D	B	B	B	B	B	
4 臨床的に意義のある研究課題を見出し、トランスレーショナルリサーチの可能性について探索できる。	F	E	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	D	E	B	F	F	C	B	B	B	B	B	
5 創造性豊かな医療人となる基礎を身につけて、診療や医学研究に応用できる。	F	F	E	E	E	E	E	E	E	E	E	E	F	F	F	F	E	C	C	E	E	E	C	
6 医療における発明の重要性を理解して、イノベーションを実践できる。	F	F	E	E	E	E	E	E	E	E	E	E	F	F	F	F	E	C	C	E	E	E	C	
Ⅶ 国際性																								
・グローバル化に対応できる語学能力と国際感覚を身につけて、応用できる。																								
1 英語を母国語とする人と対話ができる。	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	C	E	E	E	C	
2 国際的な視点で医学研究の情報を収集し、議論して発信できる。	E	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	D	E	F	F	F	F	C	B	B	B	B	
3 診療英会話を習得して、実践できる。	F	F	E	E	E	E	E	E	E	E	E	E	F	E	E	F	E	E	C	E	E	E	C	
4 国際交流に関心を持ち、多様な異文化を理解できる。	E	F	F	F	F	F	E	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	D	B	E	E	E	B	
Ⅷ 地域医療																								
・地域社会を大切に思い、地域における医療のニーズを認識したうえで、地域医療に貢献できる。																								
1 地域住民の健康状態には、家族、地域社会、文化などの社会環境が関与していることを理解できる。	F	B	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	C	C	C	C	C	C	B	B	
2 地域医療に必要なプライマリケアの考え方と技能を習得し、基礎的事項を実践できる。	F	C	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	E	F	E	D	D	C	D	C	C	B	B	
3 地域や地域で暮らす人を尊重し、コミュニティーと連携して地域医療の向上に貢献できる。	F	B	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	E	F	E	D	D	D	D	D	D	B	B	

医学科5年次目次

5年次通年

区分		授業科目名	
必修	専門科目	臨床実習Ⅰ	・・・・・・ 6

※臨床実習Ⅰ・Ⅱについては、オリエンテーションで配布する手引を参照してください。

授業のレベルについて
1:入門及び初級レベル
2:中級レベル(基礎科目)
3:中級～上級レベル(応用科目)
4:上級レベル(発展科目)
5:大学院レベル

臨床実習Ⅰ

科目到達目標:　患者情報の収集、記録、診断、治療計画について学ぶ。 患者との信頼関係に基づいた医療面接と診察法を学ぶ。
基本的臨床手技の目的、適応、禁忌、合併症と実施法を学ぶ。 基本的内科疾患を受け持ち、症候・病態、診断、治療と予後を学ぶ。
基本的な精神症状の評価の仕方、面接法、治療を学ぶ。　基本的小児科疾患を受け持ち、症候・病態、診断、治療と予後を学ぶ。
基本的外科疾患を受け持ち、外科的治療を学ぶ。 基本的産婦人科疾患を受け持ち、女性の健康問題、症候、診断、治療と予後を学ぶ。
診療チームの一員として救急医療に参加する。
地域社会(へき地・離島を含む)で求められる保健・医療・福祉・介護等の活動を通して、各々の実態や連携の必要性を学ぶ。

科目責任者:植木　賢(学部教育支援室長)　　連絡先:学務課教務係　me-kyoumu@ml.adm.tottori-u.ac.jp

回数	月日	時限	講義室	対面可 授業方法	対面不可 授業方法	授業内容	担当者	講座・ 分野・診療科	予習・復習内容	授業のキーワード
1～36週	4/3(月)～ 1/19(金)	「クリニカルクラークシップの手引き」の各診療科のページを参照。	別途指示	対面	別途指示	第一内科診療科群、第二内科診療科群、第三内科診療科群、精神科、小児科、第一外科診療科群、心臓血管外科、胸部外科診療科群、整形外科、泌尿器科、眼科、頭頸部診療科群、放射線診療科群、女性診療科群(産科婦人科)、救急科、神経内科、脳神経外科、の17診療科を各2週間ずつ、皮膚科、麻酔診療科群、血液内科(臨床検査医学)、脳神経小児科、病理診断科、感染症内科、地域医療の7診療科を各1週間ずつ、歯科口腔外科及び形成外科を併せて1週間の全42週間の実習を行う。 各実習の内容は「クリニカルクラークシップの手引き」の各診療科のページを参照。	各診療科 教員	学部教育支援室 左記診療科	「クリニカルクラークシップの手引き」の各診療科のページを参照にして、教科書等をよく読み事前に調べておくこと。実習後も理解を深めるために復習に励むこと。	「クリニカルクラークシップの手引き」の各診療科のページを参照。

教育グランドデザインとの関連:1、2、3、4、5、6、7
学位授与の方針との関連:1、2、3、4
授業のレベル:4
評価:全実習科共通の評価シートにて評価する。なお、全実習科・実習施設について全出席であることを単位認定の前提条件とする。
実務経験との関連:現役の医師がその経験を活かし、各自の専門分野に関する実習を行う。
その他:正当な理由なき欠席、遅刻、早退は1秒たりとも認められない。